

4 組別総合原価計算

同じ製造ラインで類似した2種類以上の製品をそれぞれ大量に製造している場合の原価計算方法（例：杉材の椅子とヒノキ材の椅子）。

- ・ A組とB組とで別々に原価計算を行う。
- ・ 加工費は各組へ配賦する。

（問題）

次の資料に基づいて、平均法による組別総合原価計算により、2つの組製品XとYのそれぞれの月末仕掛品、完成品総合原価、完成品単位原価を計算しなさい。

〈生産データ〉

	X組	Y組
月初仕掛品	200 kg (50%)	300 kg (50%)
当月製造費用	800	600
合計	1,200	900
月末仕掛品	400 (50%)	100 (50%)
完成品	600	800

※原料は始点で投入している。()は加工費の進捗度である。

〈原価データ〉

	X組	Y組
月初仕掛品原価		
原料費	60,000円	22,000円
加工費	20,000	50,000
当月製造費用		
原料費	170,000	230,000
加工費	200,000 (X組、Y組の合計額)	

※加工費は直接作業時間で実際配賦している。当月の直接作業時間はX組が600時間、Y組が900時間であった。

(解答)

平均法		X 仕掛品			
材料費 60,000	材料 200 kg	加工 100 kg	600 kg	材料費 138,000 加工費 75,000	
加工費 20,000	加工 100 kg		600 kg		
材料費 170,000	材料 800 kg	加工 700 kg	400 kg	材料費 92,000 加工費 25,000	
加工費 80,000 ☆	加工 700 kg		200 kg		

平均法		Y 仕掛品			
材料費 22,000	材料 300 kg	加工 150 kg	800 kg	材料費 224,000 加工費 160,000	
加工費 50,000	加工 150 kg		800 kg		
材料費 230,000	材料 600 kg	加工 700 kg	100 kg	材料費 28,000 加工費 10,000	
加工費 120,000 ☆	加工 700 kg		50 kg		

$$\star X \text{ の加工費配賦額} \quad 200,000 \times 600 \text{ 時間} / (600 + 900 \text{ 時間}) = 80,000 \text{ 円}$$

$$Y \text{ の加工費配賦額} \quad 200,000 \times 900 \text{ 時間} / (600 + 900 \text{ 時間}) = 120,000 \text{ 円}$$

以上より、

X の月末仕掛品：117,000 円

X の完成品総合原価：213,000 円 完成品単位原価 355 円/kg

Y の月末仕掛品：38,000 円

Y の完成品総合原価：384,000 円 完成品単位原価 480 円/kg